

21世紀アカデメイア 専門学校大阪ビジネス・アカデミー 学校関係者評価委員会 議事録

作成者	専門学校大阪ビジネス・アカデミー 樋口 誠克	
日時	2025年7月25日(金) 17:00～18:00	
場所	専門学校大阪ビジネス・アカデミー 4階 406教室	
司会者	専門学校大阪ビジネス・アカデミー 櫛間 文絵	
出席者(敬称略)	学 校 評 価 委 員	
	エイチエスエス合同会社 橋本 高志様	マックススポーツ株式会社 小柴 昌弘 様
	イオンリテール株式会社 川瀬 博之 様	株式会社 夢現社 山本 眞弘 様
	株式会社ジャヴァコーポレーション 白倉 亮一 様	有限会社 PURENESS 岡 真由美 様
	株式会社玉屋 澤原 真佐代 様	学校法人Adachi学園 保護者 森本 博士 様
	学 校 教 職 員	
	専門学校大阪ビジネス・アカデミー	井上和美学校長、古谷征司総合事務局長、樋口誠克事務長 片山純子、木山千佳、櫛間文絵、山脇千穂、濱岡慎之輔、槇野朋子、安田夏子、後藤芽依、大堀健
	以上計20名	

議題	・職業実践専門課程において、自己評価をはじめとした学校評価を通じた専修学校教育の質保証・向上に関する取組みについて
	・平成30年3月「専修学校における学校評価ガイドライン」が専修学校の質保証・向上に関する調査研究協力者会議の審議を得て策定され、そのガイドラインを参考にAdachi学園各校の「自己点検・自己報告書」を作成し、それに沿って各校関係者の皆様より評価をしていただく。
	カリキュラムへ反映し教育効果向上を目指し、成果として効果測定を行う。

会議進行状況	①挨拶 司会者、局長、教職員挨拶
	その後、学校関係者皆様よりお一人ずつご挨拶
	②各校の総括と基準1「教育理念・目的・育成人材等」、学校長よりご説明
	学校関係者の皆様より評価
	③専門学校大阪ビジネス・アカデミーの資料を基に、基準2「学校運営」を司会者・紀よりご説明
	学校関係者の皆様より評価
	④基準3「教育活動」、学校長より各学科のご説明
	学校関係者の皆様より評価

会議進行状況	⑤基準4「教育成果」を司会者・紀よりご説明
	学校関係者の皆様より評価
	⑥基準5「学生支援」を司会者・紀よりご説明
	学校関係者の皆様より評価
	⑦基準6「教育環境」を司会者・紀よりご説明
	学校関係者の皆様より評価
	⑧基準7「学生の募集と受け入れ」を司会者・紀よりご説明
	学校関係者の皆様より評価
	⑨基準8「財務」を司会者・紀よりご説明
	学校関係者の皆様より評価
	⑩基準9「法令等の遵守」を司会者・紀よりご説明
	学校関係者の皆様より評価
	⑪質疑応答 ご質問等は特にありませんでした。

今後の課題と改善点	基準3「教育活動」については、全国17校のグループにおいて教育本部ごとで精査、教育プログラムを組み立てる。差別化を図り、学科の商品力を高め学生満足度を高める。「5つの人間関係力」と「5つのプロフェッショナル力」をアカデメイアメソッドを通じながら「実現性」を以て体得していく。
	基準4「教育効果」については、「資格以上の付加価値でオモシロイ学校を！」をスローガンに学校全体の強化を図る。具体的には就職活動や業界デビューの際に自分のウリを分かりアピール出来る。マイ・カンパニー（新たな生き方）が具現化出来る様、全学で取り組む。
	基準5「学生支援」については、保護者との連携を図りながら、学生の継続率、脱落率、進級率に向き合い、毎年の課題をクリア出来るよう学科長を中心に現場対応していく。年々増加する、精神疾患が伴う学生へのフォローや家庭の諸事情も出来る限り傾聴し、学科レベルでも対応出来る様に体制づくりをする。
	基準6「教育環境」については、インターンシップや業界体験を積極的に導入し、学内外においての実務力を学ぶ環境を作る。業界によってAIやネット対応も強化されている為、常勤で現場処理が出来る人材確保も必要。キャリアセンターの役割として年間スケジュールに沿っての効果測定も必要。
	基準6「教育環境」については、昨年に引き続き、産学連携の実績作りと資格検定の実績作りに注力する。社会的評価も考慮した上で、安定的な学科の強化と不安定な学科のすみ分けをする。科目ごとや分野における効果測定をする。全体の底上げはマスト。学科長を中心に強化していく。
	基準6「教育環境」については、段階的に取り組む。建物の老朽化に伴う「雨漏り対策」や「環境美化・美装」や「建物・修繕」を中心に景観にも配慮しながら教育環境の水準向上を目指す。「冷暖房の劣化に伴う更新作業」をはじめ、「PC環境とオンライン関連の環境整備」等、順次取り組む。
	基準7「学生募集と受け入れ」については、ハイブリットスタイルも視野に安定的な授業運営を確保する。オンライン（LIVE）でリアルな教育と産学連携、現場を結ぶ「生きた授業内容（実践型）」を導入する。学びの多様性も考慮。通信制の学生や留学生の受け入れについて柔軟に現場対応する。
	基準7「学生募集と受け入れ」については、学園の強化学科である「総合ビジネス学科」と「3年制の愛玩動物看護学科」の差別化と商品力の精査を行う。学生の将来を見据え、「国家試験取得」をはじめ「IT・情報商材の業種」、「仮想空間に関する分野」への求人展開を強化。広報も準ずる。

次回の予定	2026年7月以降予定
-------	-------------